

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 内灘町立 大根布小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒920-0266
石川県河北郡字大根布6丁目2番地
E-mail nebu-es@educet04.plala.or.jp
Website http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~oonebe/NC2/htdocs/
幼児児童生徒数 男子 307名 女子 285名 合計 592名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

(記入例)

当校は、「心美しく たくましく」を学校理念として、ESDを環境教育の充実と捉え、ESDの実践を通して、課題解決力の育成、持続可能な開発に関する価値観の醸成を目標とした。

具体的には、自立心、判断力、課題解決力などの人間性を育むこと、他者・社会・自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことを柱に、①各教科に係わる活動、②特別活動に係わる教育、③家庭・地域社会に係わる学習を行った。

① 各教科に係わる活動

環境教育年間指導計画を作成し、各学年、各月に、各教科で環境教育を計画的組織的に実施できるようにした。

1・2年生では、生活科を中心に体験的活動を重視した。近くの公園に出かけ、身近な生き物に親しみをもち、それらが自分たちと同じ生命を持っていることに

気づけるようにした。季節ごとに出かけ、季節の変化に気づけるようにもした。2年生では、野菜を育てたり、昆虫などを飼育したりして、進んで関わることができた。

3・4年生では、社会科を中心に、お店のリサイクル活動を調べたり、ゴミの処理方法だけでなく、ゴミの減量化に自分たちはどう関わっていけばよいか考えたりしていた。水道水についても、水道水が微生物等の働きを生かして浄水していることや工夫努力して浄水された限りある水資源を無駄にしない行動を毎日の生活の中から見つけ、実践につなげる学習も行った。

5年生は、米作り体験を1年間取り組み、その苦労や工夫を実体験で学んでいた。安全で美味しいお米作りや世界を巻き込む食糧問題についてもそれぞれで課題を持ち、調べ学習に取り組んでいた。6年生では理科の学習を中心に、足元から始まる地球規模の環境問題について学習し、視野を広げることができた。

② 特別活動に係わる教育

飼育委員会では、うさぎ、インコ、金魚を飼育し、お世話活動を通して生命の大切さを学んだ。園芸・美化委員会では、玄関花壇の水遣り活動を通して環境保全の大切さを学んでいた。また、ゴミの集計・減量化に取り組んだ。

全校児童で、定期的に校舎周りの外掃除を実施した。学校の環境を自分たちの力で整えたり、刈り取った草のリサイクル活動に取り組んだりした。

③ 家庭、地域社会との連携に関わる学習

保護者、地域住民、地域の公共施設等の協力も得て、エコキャップ運動(ペットボトルキャップの回収)にも取り組んでいる。PTA活動としては、制服の再利用を促す制服バザーや古着回収にも取り組んでいる。



① 2年生生活科(命の学習)の写真



① 5年生米作り体験学習(稲刈り)の写真



② 飼育委員会(金魚のお世話)の写真



③ 家庭との連携(親子奉仕作業)の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 家庭、地域社会との連携)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ユネスコスクールとしての活動を環境教育の充実と捉え、取り組んでいる。環境教育の充実のため、年間指導計画を立て、学年ごとにどの教科で環境教育の視点で学習を深めるかを一覧表にまとめ、それをもとに取り組んでいる。環境教育は足元からと言われるように、校地、校舎周辺、校区、町内の地域学習を充実させ、実際に自分たちの目で、肌で、地域の自然環境や四季のうつろいを感じられるようにしている。

各教科での環境教育の充実と1年の流れ、1年生から6年生までの発達段階に応じた指導内容等、一覧表にすることで「見える化」が図られている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組めるようにするため、環境教育の全体計画を立てている。児童の実態をもとに、環境教育目標、環境教育の指導の視点を設定し、「家庭、地域社会との連携」、「日常の実践活動」と「学校の教育活動」の大きく3分野にわけ、組織的に取り組んでいる。

学校の教育活動では、「教科における環境教育」「道徳の時間」「総合的な学習の時間」「特別活動における環境教育」に細分し、指導内容や指導方針等を明示している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価の実施は不十分といえる。環境教育としても大きな視点での評価のみで、もう少し細分化した評価が必要といえる。評価の充実が、活動の質の向上だけでなく、組織的かつ継続的な取組につながっていくと考えられる。

活動の意義が分かりやすくかつ取り組みやすいものは継続しているが、評価を充実させないと惰性的になっている現状が明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だより、学級・学年だより、HP等を通して、児童の取組の様子を紹介し、家庭・地域へ働きかけている。目に見えての効果といえるか定かではないが、低学年の地域探検等では、見守りボランティアとして保護者が快く引き受けてくれている。夏季休業中に行う校舎内外の清掃活動に関しても大勢の保護者・児童が参加している。また、HPの閲覧者が毎日80名程おり、関心の高さが伺えた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ペットボトルのふたを回収するエコキャップ運動は、自治体や放送局のバックアップもあり実施してきたが、輸送費等の採算が合わないということで、運動の中止が通達された。しかし、地域の国際交流団体からの協力の打診があるので、近隣の小学校にも呼びかけ、エコキャップ運動を平成30年度も継続していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成に関しては、学校単体での実施は難しいと言える。市町の教育委員会が主導する形で実施することを希望するが、そのようか形がつくられたとしても、交流の時間を確保し、充実した活動にする余裕が捻出できないのではないかと考えられる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童は自然に親しみ、動植物のお世話を進んで行い、喜びを感じる児童が多いように思われる。保護者に関しても、エコキャップ運動への協力や古着回収、親子奉仕作業への積極的な参画等、協力的に取り組む姿が多く見られる。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの取組を継承していく形で、平成30年度も活動していく。「心美しく たくましく」を学校理念として、ESDを環境教育の充実と捉え、ESDの実践を通して、課題解決力の育成、持続可能な開発に関する価値観の醸成を目標としていく。

自立心、判断力、課題解決力などの人間性を育むこと、他者・社会・自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことを柱に、①各教科に係わる活動、②特別活動に係わる教育、③家庭・地域社会に係わる学習を組織的かつ継続的に実施していく。

校区の人口増加に伴い、平成30年度に新たに白帆台小学校が設立し、本校の児童数は半減する。今まで以上に地域の特色が色濃くなり、児童の実態の捉えも変わると思われる。地域や実態の見直しをし、それらを生かす活動を充実していかなければならないと考えている。また、課題である評価の充実にもつとめ、継続的に取り組めるような活動にしていかなければならないと考えている。